

教 区 報

第103号 2015年6月

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」



<http://www.orthodox-sendai.com/orthodox@hyper.ocn.ne.jp>

聖神降臨祭



崇め讃めらるる哉

ハリストス我等の神よ、

爾は漁者に聖神を遣して

睿智者と為し、

彼等を以て世界を漁し得たり、

人を愛する主よ、光栄は爾に帰す

— 聖神降臨祭トロパリ —

主が復活され、四十日目に昇天された後に神・聖神を遣わすことを約束され、十日後の五十日目に弟子達は聖神の降臨を賜わった。

50をギリシャ語の数詞でペンテコステと言い、復活されて五十日目の聖神降臨祭は「五旬祭」とも称される。旧約の時代、この日は「過ぎ越しの祭」から50日目、麦穂を神殿に捧げる刈入れと、モイセイがシナイ山で十戒の石版を得た記憶の祭であり、それが聖神降臨祭の予型となったものである。

神がご自身の息吹を土塊に吹き入れ「いのち」を与えて「人」を創造したように、聖神は希望を失っている人々、恐れによって踏み出せないでいる人々、喜びを生み出せず笑顔を忘れた人々の冷たくなった信仰を炎の息吹となつて温める。老いた体や震える手足にも愛を宿らせ、私たちを助け、神の僕としての役割と力を与え続けている。

教会はこの聖神の充滿する所であり、私たちはその中で信徒家族として神の愛によって育まれていくのである。



2015
復活大祭

ハリストス復活！ 実に復活！

教区内の各教会では今年も復活大祭が盛大に行われた。4月12日(日)には司祭在住教会で、またそれ以後管轄の各教会で次々と復活祭がお祝いされた。

仙台では4月11日(土)午後11時半、セラフイム大主教座下が入堂され、夜半課が始められた。聖堂中央の眠りの聖像が宝座に安置されると十字行に出発。聖鐘の打ち鳴らされる中聖堂を一周し入口に整列。「ハリストス復活！」「実に復活！」と高らかに唱えられた。

真夜中の復活大祭祈祷は聖歌隊のテンポの良い聖歌と共に進み、信徒の持ち寄った沢山のクリーチや紅卵が成聖され、聖体礼儀で喜びの領聖、そして十字架接吻では大主教座下から「ハリストス復活！」と紅卵を手渡された。

祈祷後は会館に移動し、恒例の大祝賀会が開催され、明け方まで喜びのお祝いは続いた。





▲真夜中の十字行（函館正教会）



▲聖堂前でハリストス復活！（札幌正教会）



▲春の穏やかな陽光の下で十字行（釧路正教会）



▲ろうそくの灯の中でクリーチを成聖（一関正教会）

子供たちが十字行を先導（石巻正教会）▶

函館では11日午後11時半から夜半課、早課、時課、復活大祭聖体礼儀が行われ、夜半にかけて多くの信者が集まり、祈禱後は会館で祝賀会が催された。札幌は12日9時半から復活大祭祈禱が行われた。百五十名程の参拝者が集まり外国人も多く、新しいロシア総領事ご夫妻も参拝された。釧路も12日10時より復活大祭聖体礼儀が行われ40名程の参拝があり、祝賀会も盛大に行われた。

盛岡と石巻でも12日午前には復活大祭聖体礼儀が行われ、子供たちが奉仕したり祝賀会でゲームをしたり楽しい復活祭となった。一関では11日深夜に日形の信徒も参加して復活大祭祈禱が行われた。その他各管轄の教会でも「ハリストス復活！実に復活！」の声と共にそれぞれの地域色を出して盛大に復活祭をお祝いした。



▲子供たちも参拝して和やかに（盛岡正教会）





▲救世主大聖堂での主日聖体礼儀



▲総主教聖下着座祝賀会で原田駐口大使と共に



▲キリール総主教聖下から主教叙聖15周年祝のパナギヤが贈られる



▲主教会議の様子

セラフイム大主教の訪口

～総主教着座6周年祝賀会と
主教会議参加～

セラフイム大主教座下は1月29日から2月4日までロシアに出張され、キリール総主教聖下の着座6周年祝賀会とロシア正教会の主教会議に出席された。

1月30日は午前中にモスクワ郊外にあるソフリノ聖器物工場訪問、夕刻からは救世主大聖堂で催された総主教聖下の着座記念祝賀会に出席。原田駐ロシア大使と共にキリール総主教聖下に祝辞を述べられた。31日の夜は渉外局長のイラリオン府主教座下の聖堂で徹夜祷を行った。

2月1日は救世主大聖堂での主日聖体礼儀があり、三百人近い主教品が陪祷。聖体礼儀に引き続き行われた感謝祷の時、キリール総主教聖下は5人の主教品を顕彰されたが、セラフイム大主教座下は叙聖十五周年のお祝いのパナギヤを贈られた。主教会議は2月2、3日と救世主大聖堂で開催され、様々な教会の課題が討議された。



▲渉外局長イラリオン府主教座下と



▲聖堂にて祈祷後の記念撮影（函館）



▲パニヒダを献ずる大主教座下（函館）



▲山田正教会信徒と共に記念撮影



セラフィム大主教巡回

■函館正教会 12/6-7

セラフィム大主教座下は10月28日にご永眠された函館正教会管轄司祭ニコライ・ドミートリエフ神父様の御母堂ニーナ・ドミートリエヴァ姉（78歳）の40日祭に際し函館を訪問された。大主教座下は6日(土)の主日徹夜祷と7日(日)生神女進堂祭と重なった主日聖体礼儀、及び40日祭パニヒダをご司祷された。

聖堂には沢山の花が飾られ、全国や教区の教会・信徒から多数の弔意も寄せられ、ニーナ姉の永遠の安息をお祈りした。

■山田正教会 12/23

12月23日(火)、セラフィム大主教座下は岩手県の山田正教会をご巡回され、降誕祭聖体礼儀を司祷し、地元信者と久しぶりに懇親を深める機会となった。

山田正教会は大震災の津波と火災で会堂を焼失したが一年ほど前に仮会堂を建設し、多くの支援により聖器物、イコン等も整備されて司祭巡回と祈祷が復活した。大主教座下の訪問は一年ぶりのことであり、山田の現状を視察し、将来の恒久的な会堂建設に向けて信徒を励ます機会でもあった。

山田町内は漸く市街地のかさ上げ工事也开始、町全体が復興工事の槌音に包まれていた。信徒の方々と教会堂の一日も早い復興が実現することを祈っている。

◀復興の基礎となる土地や町の基盤施設の本工事に着手した。町の再生に向けて本格始動した感がある。

東日本大震災被災永眠者記憶祭



3月8日 仙台ハリストス正教会



▲セラフィム大主教座下のご司祷によるパニヒダ



▲永眠者の記憶を行う大主教座下



▲祈りを捧げる参拝者

3月8日(日)仙台正教会において、主日聖体礼儀に引き続いて東日本大震災被災永眠者記憶祭が行われた。これまで毎年被災地である石巻正教会で記憶祭を開催してきたが、4年目の今年は各教会で行うこととなり、教区の主教座教会である仙台に於いてもセラフィム大主教座下のご司祷のもと実施された。

中新田などの近隣の教会の信者、また仙台の月例パニヒダとも重なって多数の参拝者があり、皆心をこめて共に永遠の記憶をお祈りした。

今年も全被災地で追悼行事が行われた。一万五千を超える死者、二千五百八十四名の行方名者は人々の心に深い悲しみを刻んだ。一方で復興に向けた取り組みも加速している。試練を乗り越えてより豊かな環境を整え、将来に向けて歩む姿勢を我々信者も持ちたいものである。





▲復元を伝える河北新報記事（2015.3.19付）。教会堂の復元を復興のシンボルにし、周辺を整備していくとの市の方針が示された。

3月19日(木)河北新報は、東日本大震災で被災し移転・保存するために解体された石巻市指定文化財の旧石巻ハリストス正教会会堂を、以前と同じ場所の中瀬地区での復元が正式に決まったと報じた。

教団も旧会堂の復元を願って既に石巻市に建設資金の献金を行っている。2016年度中にも建設復元の予定である。

旧石巻正教会の復元決定

東北ブロック 宣教キャラバン



▲キャラバン参加者で記念撮影

4月23日(木)、気仙沼正教会を東北ブロック宣教委員らが訪れ、宣教キャラバンを実施した。

会堂には現在施設に入所されているアレキサンドル千葉泉夫妻とご子息、会堂隣地に住み堂守を勤めるイヤコフ千葉中夫妻らが参拝し、復活祭後の信者訪問祈祷とリティヤを献じた。

気仙沼正教会会堂と会館は大震災では幸いにも大きな被害は無かったが、信徒家庭は避難を余儀なくされ大変苦労された。今回久しぶりに気仙沼に他教会の信徒も集まり一緒に祈祷を献じ、また懇談を通して励まし合うことが出来た。



▲参加者一同で復活祭後の祈祷を献じる▶





▲▶ 1/24-25の
教会学校教師会
と北海道ブロッ
ク宣教会議
(苫小牧)



◀▼5/17に行わ
れた北海道ブ
ロック拡大宣教
会議 (釧路)



▲2/19の第2回東北ブロック宣教会議 (一関)

北海道・東北ブロック 宣教会議と教会学校教師会

■北海道ブロック

1月24日(土)には教会学校教師会が、25日(日)には宣教会議が苫小牧正教会を会場に開催された。教会学校が成り立たない所もあるが、地域の子供たちと教会行事を行うという報告もあった。5月17日(日)は釧路正教会で拡大宣教会議が行われた。小池宗務局長も参加して道内教会の執事長も加わり、近況報告と次年度計画が討議された。東北との合同キャンプ開催の提案も出された。

■東北ブロック

2月19日(木)、一関正教会で第2回目の宣教会議が、また5月14日(木)には仙台正教会で各教会執事長も参加する拡大宣教会議が開催された。2月にはブロックの年度内行事の要項作成と、次年度計画の立案、教区報や播かれた種、リーフレット類の素案の討議が、また5月の拡大会議では各教会の現況や問題点、予定行事の案内など多岐にわたる報告がなされ、ブロック内の全体状況を共有できた。



▲5/14の東北ブロック拡大宣教会議 (仙台)

東北ブロック 聖歌・誦経奉仕者研修会

12月3日(水)、4日(木)の日程で今年度の東北ブロック聖歌・誦経奉仕者研修会が白河正教会を会場にして開催された。参加者は白河の信徒を中心としながら、四人の司祭と日頃奉仕をしている方など20数名が参加した。

研修はクリメント児玉神父の「教会の奉仕―誦経と聖歌―」と題する講話に始まり、奉仕者に求められる基本的な理解と心得、目指すべきことを学んだ。また



▲聖体礼儀後に聖堂にて記念撮影



▲聖堂で行われた聖歌の学び



▲晩課での聖歌・誦経の実技

聖歌部門はエカテリナ児玉繁子姉、誦経部門はマルコ小池神父が担当して実際の研修に臨んだ。

聖歌の研修は地元の聖歌隊を指導する形で奉仕の心構えや単音聖歌の基本を押さえた内容を講義で学び、晩課・聖体礼儀の実際の奉事と並行しながら課題を見つけては実習を行うという形であった。誦経の研修は祈祷書の内容よりは誦経奉仕の心構えを中心に学んだ。

初めて研修に参加した方々は、学びの实り多く今後の奉仕に大いに刺激になったとの感想を述べていた。

全国神品研修会

2/4-5 東京本会

今年も標記研修会が2月4日、5日の両日に渡りニコライ堂で開催された。今年度は「牧会」が主要テーマであった。

釧路正教会のステファン内田神父と本会のクリメント北原神父の講話では様々な体験談や目標などが話された。またグループ討議では教会の規模や地域性、財政等多岐にわたる諸問題について具体的な対処を討議した。



長司祭イオフ馬場神父様ご永眠

— 上磯正教会にて埋葬式行われる —

函館正教会管轄を最後に休職され、上磯にお住まいだった長司祭イオフ馬場登神父様は5月13日(水)午後8時過ぎ、肺癌のためにご永眠された。

昭和12年10月7日北海道上磯町出身。昭和34年正教神学院を卒業後、伝教者として横浜、盛岡、静岡に赴任。昭和39年司祭に叙聖され静岡管轄。昭和44年小田原、昭和62年4月に仙台管轄となり、同年8月東日本主教々区宗務局長、平成7年11月より函館管轄。平成20年7月に休職された。

約50年にわたる現役としての教会奉仕後も、上磯正教会の奉事補助や日曜学校を担当され、体調を崩される直前まで地元で正教を教え福音を宣べ伝えられた。永遠の安息を心よりお祈りします。

永遠の記憶



▲函館管轄時代の馬場神父様



▲土葬前のリティヤを献ぜられるセラフィム大主教座下



▲上磯正教会で行われた埋葬式



▲旧会堂跡地でリティヤを献ずる

▶石巻正教会聖堂でのパニヒダ



3月11日(水)、東日本大震災から4年目にあたる日に、石巻正教会に於いて地元信徒、仙台、高清水からも信徒が集い震災で永眠された方々を記憶するパニヒダを献じた。

パニヒダの後、信徒会館で旧交を温めた後、旧会堂跡地に移動して、震災で永眠された方々と石巻正教会の全永眠者を記憶してリティヤを献じた。

東日本大震災永眠者
記憶パニヒダ
石巻正教会

各地の教会ニュースとご案内 北海道・東北



▲[金成] 3月17日(火)午前、教会に隣接する金成小中一貫校3年生48人が「のこしたいもの、つたえたいもの」の社会科授業で訪問。説明を熱心に聞いて学んだ。



▲[盛] 3月8日(日)朝9時のNHK「日曜美術館 祈りのまなざし～山下りんのイコンと東北～」が放送された。盛、一関、山田、北鹿正教会が取材地となった。特に盛ではスタッフが5日間滞在し、姜尚中氏のインタビューや撮影が行われた。

放送後に白河など他の教会にも訪問者や問い合わせがあるなど視聴者に深い印象を与えたようであった。



▲[札幌] 4月12日(日)の復活祭、20名位の子供たちが参拝。日曜学校では卵さがしゲームを楽しんだ。元気にお友達と遊んで子供たちの絆も深まった。

キャンプだホイ! 2015 in 道南



申込みは函館正教会か各教会へ

◇北海道ブロック◇

- 実施日 7月28日(火)～30日(木)
- 開催地 北海道立森少年自然の家
- 参加費 大人10,000円 子供6,000円
未就学児 無料

教会学校夏季修養会 in おしか家族旅行村



申込みは石巻正教会か各教会へ

◇東北ブロック◇

- 実施日 7月27日(月)～28日(火)
- 開催地 おしか家族旅行村
- 参加費 大人5,000円 子供3,000円
未就学児 無料

公 示

東日本主教学区各教会
教役者及び信徒代議員 各位

十主の御名によりて

二〇一五（平成27）年度東日本主教学区「教区会議」を左記の日程により開催します。

記

一、場所 仙台ハリストス正教会

二、日時 6月28日(日)13時より

以上、公示します。

平成27年5月26日

日本ハリストス正教会教団

東日本主教学区

仙台の大主教 セラフイム

人物消息

— 敬称略 —

（2014年12月～2015年4月）

◆洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」
函館 ウエラ 堀居 美里 12月14日
仙台 ソフィヤ 山中 歌子 4月5日

※洗礼おめでとうございます。

◆永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」
釧路 ロマン 狩野 豊広 1月17日
苫小牧 ソロモニヤ保志 美代 1月13日
札幌 イリナ 窪田かをる 2月20日
エウヒミイ佐藤 力 3月19日
小樽 パウエル 窪田 弘昭 4月11日
函館 ピーメン 西村 孝平 11月30日
伝教者イシドル中居 真行 4月3日
盛岡 アンナ 小泉 千代 1月10日
岩谷堂イリナ 佐賀 ナカ 2月1日
山田 アキラ 白土 哲 4月17日
奥玉 イオアン 小野寺村夫 12月12日
十文字 パラスケワ菅原トスミ 12月22日
曾慶 アウラミイ山内 健吉 12月28日
盛 アガフィヤ千葉由起子 3月25日
石巻 マトロナ 遠藤つね子 4月25日
涌谷 エリザベタ半田 幸子 4月10日
高清水イオシフ 加藤 文美 1月28日

仙台 ライサ

田中美枝子 12月5日

玉置 昭栄 1月11日

イヤコフ 板橋 勝 1月11日

アガフィヤ遠藤 トミ 1月20日

パウエル 山野辺隆介 1月24日

白河 マトフェイ遠藤 昌雄 2月2日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

訃 報

函館ハリストス正教会 4月3日ご永眠
伝教者 イシドル 中居真行 師



伝教者の職に命じられて以来六十数年にわたりその任を全うされ、多くの方々に正教を伝え、教会の維持発展に尽力された。永遠の安息をお祈りいたします。

永遠の記憶